
電話越しの気配

有里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電話越しの気配

【Nコード】

N3138W

【作者名】

有里

【あらすじ】

サイトより転載。

社長と秘書の、電話越しの会話。

「…すみません、ご迷惑お掛けします。……」

「……………ホント、全くもってご迷惑だよ原くん。」

「……………はい、」

「そんなに嗔れた声で、…痛々しい。原くんの折角の美声が台無しだ。熱はあるの？ 今日と明日、ゆっくり休むといいよ。」

「……………すみません、そうさせてもらいます。それで、…あの、社長、」

「あー、蜂蜜が蕩けるみたいなの君の声で呼ばれるのが一番好きだったんだけど——…え？ ああ、君の代わりに来てくれた前田くん？ …別にどうってことない。仕事振りは良いしよく気が利くし、なかなか秘書に向いてるかもね。…君の中学の同級生だったんだって？」

「…ええ、地元が同じで。中学まで一緒だったんです。高校の時に僕が東京に出てきたんで、」

「へえー。……………元カノとか言っちゃう？」

「……………社長、ふざけないでください。」

「あははは、なんだあもったいない。前田くん綺麗だからモテたで

しょ。……うん、いいよねえ、美人だし男に媚びない感じもいいし、できる女って感じでしょ。ほら、小振りでちよつとツンと上向きな胸もいいよね、彼女の性格を表してるような、…」

「……………社長、」

「後姿もいいよね、すらつとしてて。お尻はもう少し肉があった方が好みだな。もっと短いスカート履けばいいのに。」

「……………」

「でもあの長い髪、上に結った方がいいと思うんだけどなあ、色っぽい感じが出ると思うんだよね——…あれ、原くん、なあに拗ねちゃった？」

「……………」

「それじゃ、……無理しないでちゃんと治して、早く帰っておいで？ 私が前田くんに浮気しない内に。」

「ッ……………そうします、電話、切りますよ。」

「ああッ、待って待って。」

「…」

「そう拗ねないで。私だって辛いんだから。君が傍にいないと、…そうだね、今もすぐにでも君の所へ飛んで行きたいくらい、仕事も手につかないのに、」

「…」

「だから早く治してね。……それでまた、君の声を聞かせて？ 体の芯が痺れるような、」

「…」

「……あー、だめだ考えれば考えるほど、ますます君を抱きたくなる。…困ったな、」

「…」

「…あ、もしかして照れてる？ ……かーわい、……——え、なに、セクハラだって？ 前田くんはまたそういうこと言ってる、これくらいでセクハラになんてなりません。だって原くんは僕は、」

「——ッ…ちよ、社長！ もしかして前田さん、そこにいますかッ？ …」

「…え？ ああ、なに原くん、そんな大きな声出しちゃ……ほら、咳き込んでやって、苦しいでしょ、」

「…く、るしいでしょじゃなくてッ、…あんた人前で何て話してんですかッ…！」

「何って、別にいいじゃない。自分の秘書、心配してるだけじゃない。」

「…ッじゃなくて、」

「なに、自分の恋人心配しちゃ悪いの？」

「……」

「ほら、くだらないこと言っでないで君は休みなさい。…これ以上話してると熱が上がっちゃいそうだね。」

「社長が、僕がヒヤヒヤするようなことを平気で言うからですよ。…」

「……」

「……でも、」

「…ん？」

「……今日は電話して下さって、ありがとうございました。……声きけて…ホッしました。……」

「…」

「………あ、それじゃ…切りますね、社長、」

「………内海、」

「…え、…？」

「………会社出たら、名前で呼べって言わなかった？」

「え、…でも、」

「…」

「う…内海さ、ん……?」

「…」

「ま、…雅人さん。……——雅人さん、」

「…ん?」

「……………だったら、雅人さんも名前、…呼んで下さいよ。………」

「……夏紀、」

「…」

「でも夏紀——…って、呼んじゃうと会いたくなるだろ。………」

「…」

「…」

「……………やっぱり明日行きます。」

「……………いや、……——前田くん、明日一日休むから、今日お願いしたやつ全部キャンセルしておいて、」

「……………みんな怒りますよ。」

「……いいよ、夏紀は怒らないでしょ。」

「……………」

「……………」

「……やっぱりまずいですよ社長、……」

「……いいの、夏紀は寝ていなさい。」

「……………」

「……いいのいいの、じゃ、こっちも仕事があるからね、前田くんに睨まれちゃってるし、切るね。……——おやすみ、原くん。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3138w/>

電話越しの気配

2011年11月13日12時43分発行